

# 持続可能な社会の実現へ “植物のチカラ”で価値創造



▲久野貴久社長

日清オイリオグループは創業以来、食用油のリーディングカンパニーとして、お客さまのニーズに応える新たな価値創造によって、豊かな食生活の実現に貢献してきた。

昨今、環境問題の深刻化や持続可能な食糧生産への要求が高まる中、国内では少子高齢化、本格的な人口減少など大きな変化が始まっている。これにコロナ禍が拍車をかけ、不確実性の高まり、世界的な消費・生活行動の変容、一層の多様化が進展する中で、ビジネスモデルの変革が求められるとともに、企業市民として今まで以上に持続可能な社会（サステナビリティ）への貢献が求められている。

こうした認識のもと、同社グループは将来にわたって持続的に成長し、持続可能な社会の実現に貢献するため、長期的な視点で「2030年に目指す姿」と「戦略の指針」となる「日清オイリオグループビジョン2030」を策定。「2030年に目指す姿」を次のように定めた。

「私たちは、“植物のチカラ”と“油脂をさらに究めた強み”で、食の新たな機能を生み出すプラットフォームの役割を担います。そして多様な価値を創造し、“生きるエネルギー”をすべての人にお届けする企業グループになります。」

「ビジョン2030」では、今後予想される機会とリスク、社会課題、さらに同社グループの強みなどを総合的に判断し、6つの重点領域（①すべての人の健康②おいしさ、美のある豊かな生活③地球環境④食のバリューチェーンへの貢献⑤信頼で

つながるサプライチェーン⑥人材マネジメント）を設定。各重点領域における課題解決を通じた社会との共有価値の創造（CSV）を成長ドライバーに長期的な視野で成長戦略を描いた。

重点領域におけるCSV目標の一例として、「すべての人の健康」では、2030年度のヘルスサイエンス商品の伸長率を200%（19年度比）に高めるほか、脂質栄養に関する健康情報を10年間累計で延べ1億人に提供。「地球環境」ではCO2排出量削減やプラスチック容器包装の削減はもとより、製油事業やチョコレート事業の副産物をバイオマスエネルギーとして活用するなど、未来を見据えた挑戦を進める。「信頼でつながるサプライチェーン」では、環境や人権に配慮した持続可能な原料調達取り組みを深め、社会課題の解決につなげる。

また、世界的に油糧原料の需給逼迫が構造的課題となる中、食のバリューチェーンへの貢献で目指す、油脂とミールの安定供給、国内食品産業および畜産業の発展への貢献、脱炭素化など、製油産業の長期的な課題認識のもと、J-オイルミルズ社との川上領域の搾油工程までを範囲とした合弁会社設立に向けた検討も始まった。

「ビジョン2030」の実現へ、最初の4年間となる新中期経営計画「Value UP+」が今年度からスタート。基本方針では「もっとお客さまの近くで、多様な価値を創造する企業グループに変革する」ことを掲げた。“植物のチカラ”を価値創造の原点に、社会との多様な共通価値の創造を通じて、持続可能な成長を目指していく方針だ。